より良い暮らし・社会は私達の手で！

医療 介護 福祉 子育て 雇用 教育 犯罪 まちづくり

組合活動から政治の道へチャレンジ！

なでしこファイル No.048

柴田ちえみさん

滋賀県議会議員（大津市）
（UAゼンセン組織内議員・東レ労組出身）

「子供にやさしい社会は、すべての人にやさしい」

皆さんは「女性議員」と聞くと、どんな人をイメージしますか。蓮舫さん?、田中真紀子さん?、土井たか子さん?…。

ここに紹介する3名の女性は、元テレビタレントでもなければ、父親が国会議員や総理大臣だったわけでもありません。私達と同じ、UAゼンセンの職場で働き、生活してきた仲間です。今回の「UAゼンセンなでしこジャパン」は、第18回統一地方選挙でUAゼンセンが応援する71名の候補者のうち、組織内（加盟組合出身）の3名の女性をクローズアップします。

医療や介護、子育て、教育…、私達の暮らしにかかわる法律や制度は、政治でなければ変えることができません。働く者、生活者の代表として、地域から"暮らし＝政治"を良くしていこうと統一地方選にのぞむ仲間達にエールを送りましょう。

柴田智恵美さん プロフィール

- 1956年、大分県で生まれる。75年4月、東レ滋賀事業場フィルム研究所に入社。健保組合、労務課勤務を経て、94年から2007年1月まで川端達夫衆議院議員事務所で秘書を務める。
- 2007年4月、滋賀県議会議員に初当選。現在、2期目。文教・警察常任委員会副委員長、防災・エネルギー対策特別委員会委員などを務める。
- 趣味は中学時代から続けているバレーボール。日本バレーボール協会の審判員の資格を持ち、大津市バレーボール協会ママさん部部長を務める。去年、所属チームが県大会で優勝し、全国大会に出場したと、うれしそうに話す。二人の娘さんと大津市内在住。

柴田ちえみさんは普段、議員バッジを付けていない。県議会議員という肩書きではなく、一人の生活者として世のなかを見た方が、「ちまたで、いまなにが問題なのか」分かるからだという。その代わりに胸に付けているのは、「児童虐待防止オレンジリボン」。大人の社会がすさんでいるために、子供達が被害者になっている。そんな社会を変えなければいけないと力を込める。いま取り組んでいるのは、傷ついた子供が、保護施設の職員やカウンセラーなど、次に出会う人によって救われ、未来へ一歩を踏み出せるよう、専門家の教育や充実について、折にふれ、議会で質問に立っていると話す。

柴田さんの一日は、朝八時半に出身組合である東レ労組滋賀支部に出勤することから始まる。組合事務所で、執行部の仲間達や、同じ東レ労組出身の奥村功、河井昭成大津市議会議員と行う情報交換が、活動の貴重なヒントになっているそうだ。また、地方自治には国の政策や法律が大きく影響するため、川端達夫衆議院議員（東レ労組出身）とも連携を密にし、地域の声を国政に届けている。身近に私達の声を代弁する議員（組織内議員）がいることは、とても心強く、必要なことだと実感した。

◆

柴田さんは大分県の高校を卒業後、東レ滋賀事業場フィルム研究所に就職した。入社して一年半のとき、ゼンセン同盟（当時）の弁論大会（現在の「私の主張」）に出場したのがきっかけで、組合から「婦人担当執行委員をやってもらえないか」と声がかかった。自分にできるかどうか分からなかったが、「とにかくやってみよう」と、自分の時間を割いて支部婦人委員会の活動に取り組んだ。研究所の上司から、「組合役員は、組合員から選挙で信任されたのだから、組合活動にも手を抜くな」と叱咤激励され

教育の充実、治安の向上に取り組む

県議会の文教・警察常任委員会の副委員長として子供達の学力・体力の向上や安心・安全社会へ向けた警察活動の充実・強化に取り組んでいる。

高齢社会を見据え、介護の充実に尽力

介護現場で働く方々から、人員不足によるサービスの低下など、介護現場の問題について聴く(写真)など、介護の現場で働く人々の処遇改善、人員確保に取り組む。

川端達夫衆議院議員は尊敬する大先輩

川端達夫衆議院議員は、東レ労組の執行委員時代からの大先輩。選挙では毎回ウグイス嬢を務めてきた。

働く者、女性、母親の視点で社会をより良く！

母子家庭の生活安定と福祉の向上目ざす

写真は、母子家庭の福祉向上を目ざす社会福祉法人「のぞみ会」と女性県議会議員との意見交換会の様子。自身の経験もふまえ、母子家庭への支援の充実を目ざす。